

コミュニティ壬生野 第31号



壬生野地域まちづくり協議会広報

2007(平成19)年11月1日発行

壬生野まつり盛大に開催される!!

第3回壬生野まつりは、10月13日(土)、14日(日)の両日、幸い好天にも恵まれて500名を超えるご来場を頂き、盛会裡に無事終了することができました。これもひとえに、壬生野地域のみなさまの絶大なご協力の賜でありまして、心からお礼を申し上げます。

さて、今年の壬生野まつりの特色は「まつり」の要素を色濃く打ち出したことにあります。つまり、従来からの美術、芸術、文化の作品を「鑑賞する」伝統的な展覧会方式に加えて、「参加し、体験し、楽しむ」まつりの感覚で自由に対応する参加方式を取り入れたことであります。

作品展では、盆栽、生花、手芸、写真、絵画、陶芸、俳句、書道等、日ごろからの丹精こめた秀逸な労作をご出品頂きましたし、壬生野小学校児童のたくましい創造力豊かな作品を多数展示頂きましたし、初の試みのもちつき(産業交流委)、ブラジルの楽器演奏(人権同和委)健康検査、模擬実体験(健康福祉委)なども好評で多くの方に賛同を頂き、エポックメイキング(画期的)な催しものになったものと確信しています。

また、壬生野地域に限らず、柘植、西柘植地域のみなさん遠く滋賀県からもご来場頂きましたし、ブラジル、韓国のかたのご来場もあり、ロコミの偉大さと国際色豊かなまつりになる気配を感じました。

終わりにになりましたが、みなさまから寄せられたアンケートにあらわれたご意見やご感想をできるだけ具現化し、来年以降の壬生野まつりに拡大再生産されるよう努力することをお約束してご挨拶といたします。

(会長 山本和生)



書道、掛け軸、米寿から続けている写経、俳句、絵画、写真、手芸、工芸、陶芸、紙の花、着物の帯、生け花、盆栽、菊、農と生け花、保育園の両園交流の図、小学生の絵画、紙粘土、教育文化委員会からノハナショウブ観察会の写真とスケッチ、人権同和合同委員会から長島愛生園研修視察からパネル展など多様な展示による交流がありました。



今年獲れた「新米」によるもちつき(産業交流委員会)、子どもたちもつきました。



血圧測定、目の病気体験、車椅子体験（健康福祉委員会）



綿菓子体験（産業交流委員会）



即売会（ヤマギシ会）



コーヒー・ジュース
（ときめきサロン）



キムチチジミ体験
（人権同和合同委員会）



ブラジルのミニピザ
（人権同和合同委員会）



ブラジル楽器演奏
（人権同和合同委員会）

壬生野まつりの展示物等の記録写真は、壬生野地域まちづくり協議会のホームページに掲載しますのでご覧ください。

長島愛生園訪問研修よりⅡ



先月号に引き続き、長島愛生園訪問研修についてお伝えします。今回は、ハンセン病を正しく理解するために、ハンセン病とは何かを紹介します。

ハンセン病とは

ハンセン病は、かつて“らい”、“らい病”と呼ばれ、偏見に基づいた差別によって、患者やその回復者たちを苦しめてきました。ハンセン病は体の末梢神経がまひしたり、筋肉が弛緩したり髪の毛が抜けたり、というのが特徴です。迷信と因習がつくった「遺伝病」という、らいへの偏見に人々は苦しめられました。

しかし、ノルウェーの医師ハンセンが、1873年に病原菌を発見したことにより、この病気に長い間ははられていた「遺伝病」のレッテルがはがされ、感染症の病気であることが明らかになりました。

日本では、1930年頃から警察力まで動員し、患者たちを強制的に隔離していきました。人々の社会内偏見をあおりながら強制隔離が正当化されていったのです。戦後、新憲法が制定され、1953年にらい予防法が改定されましたが、強制隔離、強制消毒、外出禁止の条文はそのまま継続されたのです。(すでに、医学的な根拠を失っていたのに)、国際的にはハンセン病患者の隔離は否定され、欧米では通院治療があたりまえでした。

ハンセン病は、確かに感染性の伝染病ですが、菌の病原性(病気を引き起こす力)は微弱で、日本では実際に発病する人は、1年に数名です。成人間の感染はほとんどありません。しかも、もし感染してもハンセン病を発病する人はもっと確率が少ないのです。日常的に患者と接している医師や看護婦に発病例がないことから、その伝染性、病原性の弱さは明らかです。現在ではハンセン病は、科学治療法による通院で治る「可治」の病となりました。(来月号に続く)

研修の概要

開催日：9月24日 参加者：23名

目的：目的は、ハンセン病患者に対する過去の誤った隔離政策やハンセン病に対する根強い偏見が今も残っていることを知るとともに、様々な人権問題に触れ、自分の差別意識を見直し、壬生野地域の啓発につなげていくことを目的としています。

企画：人権同和合同委員会

勝手神社神事踊り



10月7日(日)勝手神社の例大祭が行われました。この日は、東風が強く、踊り子たちは、立っているのも一苦労という状態でした。

この踊りを奉納するために、踊り子たちは、9月上旬から約1ヶ月の練習を重ね、本番を迎えました。

五穀豊穡を願うこのまつりは、踊りや奉納角力(すもう)を通じて、豊かな人間関係が作られるまつりでもあるのです。

春日神社まつり



10月21日(日)春日神社の秋の大祭が行われました。子ども神輿は、西之澤、川西、川東、それに川西青葉台の子どもたちが、宮総代、区長、氏子青年の方々に見守られながら、各字の公民館や地域の人家の道々をくまなく回って、それぞれの地域の安全や五穀豊穡を祈願してくれました。写真は、川西公民館午後3時ごろ到着し、祈祷をしてもらっているところです。

いがまちスポーツクラブ、ハイキングに参加して

いがまちスポーツクラブ主催の第1回スポーツフェスタが、10月7日(日)に開催されました。グランドゴルフ、ソフトバレーボール、ハイキングの三種目に分かれて、合計150名の人達が参加しました。

ハイキングの36名は、500mlのスポーツドリンクと、各自の名前が書かれた水筒ケースを貰ってスポーツセンターを出発しました。ススキがなびく土手や、山栗が実っている山道を歩いてゴールの白藤滝へ辿り着いた時には、みんないい汗をかいていました。滝のそばでたっぷりマイナスイオンを浴びてスタート地点へ帰り、全員10キロの完歩証書を頂きました。清々しい秋の一時でした。(宮田美智子)

ふるさと音頭保存伝承会(仮称) 会員募集について協力依頼

橋本秀子さん(柘植町Tel45-2275)、高橋雅代さん(西之澤)お二人が発起人となり、旧伊賀町時代の伊賀町音頭、芭蕉音頭等保存伝承に立ち上がりました。

ともに活動する仲間を探しています。興味のある方は、直接御兩名、又は協議会へお問い合わせ下さい。



遠足の秋、伊賀市立小学校の子ども達を迎えて



10月2日大山田小学校1・2年生80名が20名1グループで鶏、豚、牛、畑のコースを順次まわり、動物に触れたりトマトハウスや野菜出荷場を見学しました。また、10月22日府中小学校1・2年生65名が遠足で訪れ、ひよこ等も見学し、いこいの森でお弁当を食べ遊具などで遊びました。

仔牛や仔豚に出会おうと「かわいい！持って帰りたい」、トマトや牛乳が苦手な子も挑戦して食べてみて「おいしい!」。そんな子ども達を見て、私達もとてもうれしく思いました。

もっとたくさんの伊賀市の子ども達が気軽に畜産や農業に触れ合えるように、日々の仕事に一層励んでいきたいと思いました。(岡野喜子)

紅葉まつり

とき

11月3日(土・文化の日)
10:30~14:30

ところ

白藤の滝 特設開場

開場周辺には、駐車場がありません。山畑農事集会所よりシャトルバスにお乗り下さい。

霊峰中学校文化祭

とき

11月9・10日(金・土)

ところ

霊峰中学校体育館ほか

10日(土)9時から人権コンサートもあります。地域の方も是非、ご出席下さい。

壬生野小学校 楽しく集う会

とき

12月1日(土)
08:50~12:00 人権学習発表会
13:30~15:00 収穫祭

ところ

壬生野小学校体育館、グラウンド

ときめきサロン

土曜日の午前中は、まちづくり協議会の事務所(壬生の里 2階)へお出かけ下さい。

図書の貸し出しをします。お茶やコーヒーを飲みながら、楽しくおしゃべりなどもしませんか。是非、子どもさんも一緒に“くつろぎの場”としてご活用下さい。

11月のお世話をさせて頂く担当者は、下記の通りです。(8:30~12:00)

3日(土)	三根幸治、福島裕美子、古川早織
10日(土)	中林正彦、三根久美子、南出ゆう子
17日(土)	草山靖雄、川口浩哉、澤野徳子
24日(土)	館忠蔵、田中智代、上林健作

編集後記

先日、開催されました壬生野まつりには、大勢の皆様方にご参加、ご観覧いただきありがとうございました。

さて、みなさん、秋を満喫していますか。木々の梢も色づき、スポーツ、味覚、行楽とさわやかな好季節です。どうか実り多い秋を過ごされますように!!(奥井陽子)

◇◇◇ご意見・お問い合わせは下記までお寄せ下さい◇◇◇

発行 壬生野地域まちづくり協議会 広報公聴実行委員会
事務局 三重県伊賀市川東1659-5 壬生野福祉ふれあいセンター内
Tel・Fax 0595(45)6270 E-mail tokimeki@ict.ne.jp URL <http://www.mibuno.net>